

国語学習相談室

2023. 7. 13

20年ほど前の話である。3年間のイタリア、ローマ日本人学校での勤務を終え、市内の中学校に復帰した。あれこれとやりたいことを考えていたのだと思う。以前からやりたかったのだが、やれずにいたことを実行に移すことにした。その一つが、「国語教室通信『窓』」である。他にもある。それが、「国語学習相談室」である。

学校には、資料室のような、ちょっとしたスペースがある。そこに置いてある荷物を整理して、机といすをセットした。昼休みなどに、国語の学習に限らず、生徒が相談に来ることができるようなスペースがほしいと考えていた。最初は、ほとんどの生徒が様子を見に来ただけだった。PRされれば、気にはなるのだろう。

そのうち、何人かの生徒が、相談にくるようになった。国語の学習というわけではなかった。しばらくは続いたが、自然消滅のような状態になった。教員にとって、昼休みは休みではない。様々なことが入ってくる。国語学習相談室を維持することがむずかしくなった。

現在、本校には、数学の学習相談員の先生に来ていただいている。経験豊富な先生である。数学の授業中は、T2として、主に生徒への個別指導を担っていただいている。加えて、昼休みには、空きスペースを利用して、来室した生徒に、数学の学習のフォローをしていただいている。毎日、4名ほどの生徒がお世話になっている。

私が、昔、やろうとして頓挫した学習相談室の姿が、そこにはあった。国語ではなく数学ではあるが。考えてみると、数学は質問をしやすいが、国語はしづらいかもしれない。どこをどう聞いていいかわからないところがある。それも、国語学習相談室が続かなかった理由の一つである。

あれから、20年近く経ち、数学だけではあるが、学習相談室ができるようになってよかった。このような場を必要とする生徒たちがいる。本来であれば、毎時間の授業の後にでも、質問に来てくればいいのだが、なかなか現実的にはむずかしい。かといって、昼休みに、職員室に来て質問をするのも抵抗があるだろう。

20年前の私のように、自分の担当教科の学習相談のようなことをやってみたい先生は、相当数いるはずである。放課後にでも、ゆったりと自分の教室で、困り感をもっている生徒を相手に学習相談を行えるような日が来ればいいのだが、なかなか厳しい現状である。

数学に限らず、もっと学習したい、もっとわかりたいという生徒は多い。日本の公教育では、その子のペースに合わせてということがむずかしい。誰一人取り残してはいけないのだが、現実には厳しい。ゆったりと、生徒も教員も過ごせるような学習相談室が増えるといいのだが、一朝一夕には進みそうにはない。数学の学習相談に通う生徒が、どのように変わっていくのか、楽しみである。昔、自分ができなかった国語学習相談室のイメージを重ねながら、数学学習相談室の今後を見守っていききたい。